

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 千 共 206 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,150 円
紙 代 の み 3,600 円
振 替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし

教区総会報告

神奈川 議長総括

2016 年度

4

教区総会終わる、教団総会へ



清水ヶ丘教会にて開催

北村氏「免職」撤回、議論の場設置 要求を可決

神奈川教区 第136回

神奈川教区総会
は、6月25日、清水ヶ丘教会で正議員233名中184名出席で開催。教団総会に提出する議案をまとめることが中心となった。

一つは、北村慈郎氏関連の問題で、長崎哲夫問安使の挨拶への質疑においても、北村氏の問題への発言が相次いだ。長崎問安使は、これまでの経緯を踏まえつつ、「教憲・教規からの逸脱は、黙視するわけにいかない」、「教師として帰ることを待っている」と応じた。その後に上程された北村氏問題関連議案は、「免職」撤回を求め、教団内に聖餐のあり方について議論する場を教団総会に求めるものであった。質

疑では、「未受洗者配餐は、教会の基盤破壊に他ならない」、「教団の手続から考えると北村氏排除の動きがあったとしか思えない」、「教団への議案として提出するのであれば、少なくともそれまで教憲・教規を守ること」を明らかにすべき」と、賛否が大きく分かれた。答弁を担当した平良愛香議長は、「在日の指紋押捺拒否の戦いは、法律に従わないことで物を言い続けた。まず規則に従って

からというのは、説得力があるように聞こえるが、そうするわけにもいかないという思いもある」と応え、本件は156名中112名の賛成で可決された。もう一つは、教団総会に辺野古基地建设への抗議声明、並びに沖縄教区に謝罪し、関係修復と合同のとりえなおしを提出する議案で、議場からは教会の問題と政治的な問題を同列に扱うことに賛疑は集中した。異なる次

元のことが一つの議案で語られている。どの場所にあっても、教会はキリストへの信仰告白で一つになる」との意見の一方で、「教会のことと社会のことは、生の現実の上では、切り離すことができない」との意見があり、賛否両論ある中、154名中99名の賛成で可決。北村氏議案と共に教団総会に提出することとなった。

また、パワー・ハラスメントに関する訴えに対しての常置委員会の対応が問題とされた議案は、再三の議長延長を重ね、議論したが、常置委員会付託となった。但し、平良議長は、事柄が常置委員会だけで対応できないため、グループを作り、対応することを付け加えた。その他、うるま市暴行殺害事件抗議声明を145名中108名の賛成で可決。

また、2名の按手札と2名の准允式が執行された。【信徒】伊東永子(翠ヶ丘、古谷正仁(時田)、山崎正幸(横浜二ツ橋)、吉田慈(林間つきみ野)、三宅宣幸(元住吉、宗野鏡子(田園江田)【信徒】伊東永子(翠ヶ丘、古谷正仁(時田)、山崎正幸(横浜二ツ橋)、吉田慈(林間つきみ野)、三宅宣幸(元住吉、宗野鏡子(田園江田)



17教区総会を終えて

―対話を求めて―

教団総会議長

石橋秀雄

教区総会を問安し、17教区の問安を終えて、問安使たちが「按手札、准允式が厳粛に行われて感動」と語りあった。教団の重要な使命は「教師をたてる」ことであるが、教区において厳粛な按手札が行われていることに

励まされた。同時に教憲第6条が損なわれている問題を痛みに感じざるを得ない。私は教団議長に選任されてから「教区問安は議長としての責務」として問安使拒否の教区にも積極的に行き続けて来た。

「問安使拒否は、諸教会と教団との対話と情報を得る権利を教会から奪うことになる」との指摘がなされている。「信仰の一致と伝道協力」が教団の重要な課題と訴えてきたが、伝道資金の運用がなされ、教区の伝道課題を全体教会で担い合うことが、切実に

求められている時、問安使拒否で教区との関係が断ち切られることは諸教会にとってあり得ないことだ。大変励まされたことは、ある教区で、伝道資金の運用をめぐって「どの教区でも大災害の

のように伝道に取組むか」ということで活発な議論がなされていたことだ。それぞれの教会の地域で伝道ビジョンが立てられ伝道する業に伝道資金が用いられて行ったら、その影響は全体教会に及び、教団の活性化に繋がると確信させられた。

熊本・大分大地震が発生し、震度7の地震の後、震度7.3の本震が発生しその後今日までなお地震が続く、その恐怖から来る精神的ダメージはわたしたちの想像を越える。どの教区でも大災害の



東中国教区総会にて
(16年5月23日)

報告と祈りが捧げられた。被災地の教会の牧師は、自らの被災に痛みを抱えながら地域の被災者のために走り回っておられる。特に九州教区の梅崎浩二議長は、今までの被災教区の被災への取り組みを見つめ、冷静に確実に初動と対策を進めておられることに感銘を受けた。

九州教区総会で、川島直道牧師(熊本地区長、錦ヶ丘)は被災報告をなされる中で、地震直後の礼拝について話された。「洗礼盤がヒックリかえ

る」と就任挨拶をされた。同教区総会議場で私は平良新議長に「個人的にでもお話をさせていたきたい」と挨拶をした。対話の道が開かれることを切実に願っている。

り、パイプオルガンのパイプが飛び散り余震が続くなかで、共に讃美歌を歌い、御言葉を聞き、大地が揺れ動く中でこたえが平安、この体験は忘れられない」との言葉に心揺り動かされた。教団としては、九州教区の教会・牧師館の被害状況が明らかにになった時点で九州教区の要請に基づき全教団的に取り組んで行きたいと願っている。

沖縄教区では新三役が選出された。平良修新議長は「17教区中、他の教区にはない危機の中にあり」と就任挨拶をされた。同教区総会議場で私は平良新議長に「個人的にでもお話をさせていたきたい」と挨拶をした。対話の道が開かれることを切実に願っている。



説教が思わぬ聞かれ方をするのを経験する。果たしてそんなこと語ったのだろうか、と驚かされるような事後の印象や感想を聞くことがある。肯定的な内容においても、否定的なそれにおいても、▼説教が取扱説明書のように間違えなくキリスト者の生活を導き指導するマニュアルであるなら間違っていない。語るほうも、どこかで理屈が破綻していることを自覚している。しかし、その非合理、非効率な語りで励まされたり、戒められたり、教えられたりする。不思議な言葉の営みだ。▼確かに、語る意図として間違いないく聞いてほしいと願っていることでもある。説教にはそういった教育の要素が皆無ではない。そうではあっても聞き手の心を説教者が支配するようには教えることは決してできない。それが出来たら、また、していたら恐ろしいことである。▼本紙の編集、校正、発行作業で一語削り、一字加える。「が」を「は」に代える。それだけで読み方が全く違ってくることを経験する。読まれ間違いが無いよう細心の注意をしても、そう読まれたか、ということを経験する。



新しい会場、熱海にて開催

2016年度

新任教師 オリエンテーション



塩谷氏による講演

6月13日～15日まで、新任教師オリエンテーションがハートピア熱海にて開催された。新任教師オリエンテーションは、教規43条②により、教師委員会が司る教師研修として行われている。今年 は主題「伝道を共に担う 教団の教師」のもと、3 日間のプログラムであった。4月より教会やキリスト教学校で仕えはじめて3ヶ月ほど経過して、様々なことを経験してきた新任教師にとって、教団の教師として立てられた同労者と過ごす貴重な

3日間であると考えてプログラムを設定している。今回の参加者は新任教師37名、教団・神学校関係者24名、総計61名であった。

1日目は開会礼拝（説教Ⅱ菅原力委員長）からはじまり、特別講師として塩谷直也教師（青山学院大学法学部教授・宗教学主任）を迎え、「立ち尽くす神学―説教は言い訳するほど長くなり」の主題のもとに講演があった。

ホワイトボードに絵を描きながらのユニークなスタイルで、内容は自身の経験をふまえながら、教会や学校に仕え始めた新任教師が仕えていく方向性を示すものだった。その他にも多くの示唆が与えられる講演であった。夕食の後には、交わりの時をもって、1日目を閉じた。

2日目は朝の礼拝（説教Ⅱ関川瑞恵委員）からはじまり、午前は次の3つのセッションであった。

①石橋秀雄教団議長「贖罪信仰を語る説教者として」贖罪信仰の重要性について、聖書から贖罪信仰を確認し、そして教団信仰告白によって伝道する教会、主の御体である教会を立てることを確認した。そして山北宣

久前教団議長の議長総括「荒野の40年」を取り上げながら、具体例として関東教区での伝道する教会を立てる働きを挙げて語った。

②小西望東北教区議長「与えられた課題と召し―震災を歩む東北から」。映像を流しながら、震災当時の状況を振り返った。そして資料によって、被災教会の状況、教区総会にて被災者支援センターと放射能問題対策支援対策室を2019年3月まで延長を決定したことなどを報告した。

③事務局から「教団の機構について」。長崎哲夫教団総幹事から教団の震災対応と震災に際して多くの協力をいただいた海外教会との関わりについて、道家紀一総務幹事が教団機構の組織と働

き、事務手続き、具体的に教師に関係がある事務手続き、教会規則と宗教法人規則の相違と役割についての解説があった。午後は教団三局などの

「教団の取り組み」出版局（竹澤知代志局長、年金局（櫻井淳子業務室長）、宣教研究所（松井睦委員長）、部落解放センター（小林明主事）について担当者からの説明があ

6月13日、新任教師オリエンテーションの1日目と2日目、短い時間であったが第6回教師委員会を開催した。まず新任教師オリエンテーションについて参加者やプログラムなど最終的な確認を行い、議事日程および前回議事録承認、諸

教師委員会報告

報告を受けた。6月13日、新任教師オリエンテーションの1日目と2日目、短い時間であったが第6回教師委員会を開催した。まず新任教師オリエンテーションについて参加者やプログラムなど最終的な確認を行い、議事日程および前回議事録承認、諸

った。午前と午後の長いセッションを終えて、自由時間には温泉や熱海の町の散策などリフレッシュの時をもち、夜には7分団に分かれて語り合いの時をもった。この分団は付属施設のある教師や金局（櫻井淳子業務室長）、宣教研究所（松井睦委員長）、部落解放センター（小林明主事）について担当者からの説明があ

はじまり、毎年好評の「牧会講話」の時をもった。今年の講師は内藤留幸教師（隠退教師）。自身の召命から高知教会、善通寺教会、蕃山町教会、金沢教会、野方町教会、高井戸教会での牧会伝道の一端を語った。教会規則の制定や教理の学びの重要性、教会幼児施設の位置付けを整えることなどが印象に残った。

最後は参加者から一言の感想を語る「全体のまとめ」、閉会礼拝（説教Ⅱ大友英樹委員）をもって、3日間のプログラムを閉じた。

今回は新しい会場を利用することになったが、熱海駅からバスで10分ほどの場所にあり、目の前の海には伊豆大島が見える会場で、研修とリフレッシュのためにはよい会場であったと思う。会場側の配慮と協力により、充実したプログラムになった。教師委員会では次回も同じ会場での開催を予定している。

②第40回教団総会報告書作成に関する件。事務局の準備した報告書を確認し、菅原力委員長が「評価と展望」を執筆することを決定した。

③その他、教規第43条で教師委員会に与えられている権能について審議した。（大友英樹報）

全国社会委員長会議

「3・11・東日本大震災から5年」をテーマに



新装の成った教団会議室

第39総会期全国社会委員長会議が、6月13日～14日に日本基督教団会議室で開催された。テーマは「3・11・東日本大震災から5年」だった。

開会礼拝を芳澤信社会委員長が担当し、使徒言行録8章26～40節の御言葉を通して、大震災5年の中で起こった神の業を見ていくことを語った。発題Ⅰを教団救援対策本部・飯島信担当幹事、エマ才仙台担当・佐藤真

史幹事補佐が行った。飯島氏は救援対策本部の活動について、17年3月で本部活動が終了するが、救援活動の全記録を

刊行する準備に入っていること、国際青年会議（17年3月28日～31日）のため準備を青年が担当していることを報告した。

佐藤氏は震災後の今と現状の具体的事例を報告した。地域の復興格差、目に見える部分の復興と被災者個々人の状況の差

を語り、今後の課題として被災地からの問いにキリスト者として向き合うことを語った。

発題Ⅱを東北教区放射能問題支援対策室いずみ・保科隆室長が行った。いずみは放射能問題対策室として設置3年を迎えた。活動の一つに甲状腺検査がある。課題は甲状腺検査に子供を送り出す保護者への寄り添い、検査医師の確保である。

第5回社会委員会を6月14日～15日、教団会議室で開催した。開会にあたり、押川幸男委員が開会礼拝をし、使徒言行録4章23～31節にて御言葉を取次いだ。

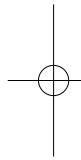
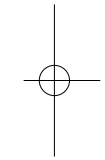
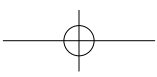
社会委員会報告

前回議事録確定後、諸報告があった。熊本地震救援募金依頼、エクアドル地震救援募金依頼を発送した。現在、熊本地震救援募金95万3千326円が集まった。個人か

ら多く募金されている。熊本地震の影響により日本キリスト教保育所同盟に加入している保育園も被害を受けていることが報告された。

協議事項は、15年度決算承認、全国社会委員長会議を受け意見交換した。その結果、常議員会に放射能問題支援対策室いずみへの支援継続希望があることを報告し、いずみの甲状腺検査のため、その他の救援資金より50万円支出することを協議した。熊本地震被災地への顔の見える支援と

状況の把握のため、委員2名を派遣し問安する。次回の委員会の内容、社会委員会通信第49号発行担当者について協議した。その他、社会委員会の使命に関わる事柄について協議、意見交換した。（加藤孔二報）



(3)

2016年7月23日

教 団 新 報

(第三種郵便物認可)

第4844号

▼予算決算委員会▲

第4次補正予算、各決算を承認

第5回予算決算委員会が6月3日に全委員、会計監査委員長及び総幹事、財務幹事の出席のもとに行われた。

で、大変健闘したことが評価された。

愛澤豊重委員長より「今後の教団財政の見通し」について以下の見解が表明された。負担金の源泉は諸教会の献金収入であり、経常支出に基づいて負担金は決まる。諸教会の収入は毎年縮小傾向が続いている。そのよ

うな中で負担金額を現状維持として行くことは実質的には負担金の値上げに等しいことになる。今後教勢拡大に伴う収入の増加を期待しつつも、現

▼教育委員会▲

クリスマス献金配分を決定

6月13日～14日に教団小会議室で第5回教育委員会を行った。出席者は委員7名と事務局2名。事務局報告、教師の友編集委員会報告、全国教会幼稚園連絡会報告、キリ

スト教教育主事認定試験報告、日独ユースミッ

ン2015報告、台湾ユースミッ

ン2016報告、宗教改革500周年記念中高生・青年大会報告、常議員会報告、

宣教委員会報告がなされ、引き続き、教団

教育委員会を取り組んで行くと確認した。教会学校応援セット追加2件について承認した。日本キリスト教教育学会の会費を3年分納める。キリスト教教育主事の会

費を3年分納める。キリスト教教育主事の会

費を3年分納める。キリスト教教育主事の会

▼伝道委員会▲

沖縄を訪問、委員会開催

第5回委員会が6月20～22日に、沖縄・那覇中央教会にて行われた。業務報告及び会計報告を承認した。2016年度開拓伝道援助金がすべ

て支出され、各教会・伝道所を問安した委員からの報告も受けた。単に財政的支援のみならず、問安によって直接教会を覚える貴重な機会であるこ

とが確認された。また、常議員会報告、伝道推進室委員会報告を受けた。関連委員会として、宣教委員会報告、伝道資金小委員会、「こころの友」信

徒の友編集委員会報告、宗教改革500周年記念教会中高生・青年大会実行委員会報告をそれぞれ

の担当者から受けた。2月に行われた農村伝道に関する協議会について、それを経て、現地で受洗者が与えられたとの連絡も受けた。恵みに満ちた会であり、報告書のま

とめを進めることを確認した。

21日の午後には読谷教会に移動し、沖縄の有志の牧師たちと祈禱会を持

った。自己紹介と共に、教会設立やこれまでの経緯、また現状を聞く中、戦争との関わりも多々あることが伝えられた。祈

禱会の後には、沖縄の方マ(自然にできた洞窟で、戦時中の避難場所とされ

伝道・伝道推進室合同委員会



伝道・推進室各委員が集い

那覇中央教会にて、6月20日に行われた。幹事・職員に加え、具志堅篤教師(読谷、教団教育委員

の会長)の出席を承認した。成田いうし伝道委員長が

この会の議長を務め、両委員会の書記が合同委員会の書記としても選任さ

れた。伝道推進室委員会に関する諸報告を受け、それを巡る協議をした。

前日の主の日は、伝道応援として沖縄の5教会に説教者が派遣され

た。中には、説教を聞いて受洗志願者が生まれるという、良き実りも与え

られた。各教会が計画した礼拝後の集会にも奉仕し内容を報告し合った。

福島キャンパン、北陸大会の報告、11月19～21日に予定されている栃木を中心とした北関東のキャンパンについて説明を受

伝道・伝道推進室合同委員会



伝道・推進室各委員が集い

那覇中央教会にて、6月20日に行われた。幹事・職員に加え、具志堅篤教師(読谷、教団教育委員

の会長)の出席を承認した。成田いうし伝道委員長が

この会の議長を務め、両委員会の書記が合同委員会の書記としても選任さ

れた。伝道推進室委員会に関する諸報告を受け、それを巡る協議をした。

前日の主の日は、伝道応援として沖縄の5教会に説教者が派遣され

た。中には、説教を聞いて受洗志願者が生まれるという、良き実りも与え

られた。各教会が計画した礼拝後の集会にも奉仕し内容を報告し合った。

福島キャンパン、北陸大会の報告、11月19～21日に予定されている栃木を中心とした北関東のキャンパンについて説明を受

するという予測となっている。今、それに基づいてどのような予算を組むことができるのかを検討する時期に入っている。

予決の立場でこの問題を検討する必要がある。事務局では人件費削減にかなり努力しているが、職

員の必要数をどのあたりと考えるのかの問題である。負担金減額の場合の収入見通しを持って

今後は予算を提案していく必要がある。負担金賦課額を出す計算式は作

ったが、適切な負担金額そのものを考える必要がある。

この意見表明を踏まえ、今後の教団財政を検討するための特別委員会の設置を決め3人を選んだ。また全国財務委員長会議のテーマは「教団財政の今後」と決めた。

(長谷川洋介報)

6月13日～14日に教団小会議室で第5回教育委員会を行った。出席者は委員7名と事務局2名。事務局報告、教師の友編集委員会報告、全国教会幼稚園連絡会報告、キリ

スト教教育主事認定試験報告、日独ユースミッ

ン2015報告、台湾ユースミッ

ン2016報告、宗教改革500周年記念中高生・青年大会報告、常議員会報告、

宣教委員会報告がなされ、引き続き、教団

教育委員会を取り組んで行くと確認した。教会学校応援セット追加2件について承認した。日本キリスト教教育学会の会費を3年分納める。キリスト教教育主事の会

費を3年分納める。キリスト教教育主事の会

費を3年分納める。キリスト教教育主事の会

事務局報

補教師登録

森野真理 (2016.4.28受允)

竹内克哉 (2016.4.29受允)

浅場理恵、竹井真希、確井英俊、小島可南恵、武久 盾 (2016.5.3受允)

木谷 実、徐 珊珊 (2016.5.4受允)

澤田石秀晴、井上正道、榮 巖、土井栄子 (2016.5.16受允)

梅崎須磨子 (2016.5.17受允)

瀧山喜与実、中道祐太、関岡登季弥、八重樫美恵 (2016.5.24受允)

梅田真琴、高多英明、平島愛恵 (2016.5.25受允)

正教師登録 高濱心吾、高濱梨紗 (2016.4.28受按)

阪口 新 (2016.4.29受按)

与田正和 (2016.5.4受按)

遠藤尚幸、小岩 輝、齋藤眞理子、澁谷実季、田中弘子、玉置千鶴子、井田博康、小川安生、小森康三、宮本幸男 (2016.5.16受按)

小野 輝、長尾大輔、餅原研一 (2016.5.17受按)

上野玲奈、渡辺真一 (2016.5.24受按)

安達正樹、佐藤 徹、汐碓直美、梁 眞錫 (2016.5.25受按)

教師異動

藤沢 辞(主)村上実基

辞(担)村上真理子

辞(主)黒田直人

辞(主)大島一枝

辞(兼担)大島 力

就(主)村上実基

就(主)小西直人

就(主)早瀬和人

就(代)小西直人

辞(主)大塚 慎

辞(担)大塚泰恵

就(主)早瀬和人

就(主)久保田愛策

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

就(主)大塚 慎

仙台川平 辞(主)小島啓史	〃	就(代)浦上 充	掛川	辞(主)高桑義雄	辞(教)棟方信彦	香川直島	仙台南	辞(担)佐藤義子
〃	就(主)水田雅敏	〃	〃	就(主)塚本洋子	頌栄保育学院	辞(兼主)田中暉彦	三春	辞(主)佐々木威
気賀	辞(主)川添義和	辞(主)松田直樹	京都	辞(担)小岩 輝	就(教)棟方信彦	就(兼主)福田 哲	〃	就(主)若林俊郎
〃	就(主)小島啓史	就(主)木谷 誠	沼田	辞(主)渡邊大修	啓明学院	辞(代)野村義和	〃	就(担)佐々木威
埼大通り 辞(代)深井智朗	松山	辞(主)上林順一郎	〃	就(主)小岩 輝	辞(教)武井裕賀里	就(主)竹内克哉	郡山細沼 辞(代)佐藤 健	〃
〃	就(主)川添義和	就(主)上島一高	紫野	辞(主)大澤 宣	西神美賀多台	京都丸太町	〃	就(代)佐藤七海
越生	辞(主)西海満希子	就(担)山下茂雄	〃	就(主)渡邊大修	辞(担)丹羽和子	就(担)木谷 実	山都 辞(兼主)八木原敬一	〃
〃	辞(担)江田めぐみ	江古田	〃	弓町本郷 辞(代)横野朝彦	神戸栄光 辞(担)汐碓直美	宇治	〃	就(代)片岡蔄也
〃	就(主)江田めぐみ	就(主)上林順一郎	〃	就(主)大澤 宣	愛和病院 就(教)汐碓直美	活水中学・高校	会津若松	就(担)八重樫美恵
東京聖書学校	就(担)松田直樹	京都	〃	就(主)大澤 宣	横浜指路 辞(担)岩住 賢	就(教)三河悠希子	就(担)八重樫美恵	〃
就(神)西海満希子	水戸自由ヶ丘	〃	〃	辞(担)和田芳子	神戸神愛	東海田	就(担)武久 盾	山形本町
仙台市民 辞(代)西間木順	〃	辞(主)西上信義	豊澤	就(担)和田芳子	辞(代)鈴木襄善姫	八尾東	就(担)確井英俊	就(主)関岡登季弥
〃	就(代)橋爪忠夫	辞(担)坂口慶行	明治学院大学	〃	〃	梅花中学・高校	就(主)関岡登季弥	就(主)関岡登季弥
山形本町 辞(主)石井佑二	〃	就(主)坂口慶行	〃	辞(教)北川一明	加古川東就(代)奥野彦藏	就(教)小畠可南恵	辞(教)佐々木勝彦	辞(教)佐々木勝彦
〃	辞(担)石井美琴	本庄旭	〃	八千代台 辞(担)水吉俊彦	神戸多聞 辞(代)岡崎 岳	玉川平安就(代)棟居 勇	石巻栄光 辞(主)宮島星子	〃
遠州	辞(代)張田 眞	〃	〃	水口	〃	自由が丘 辞(担)藤野美樹	〃	就(代)小西 望
〃	就(主)石井佑二	昭島	〃	甲南	日誌	浦和別所	馬見勞務 辞(代)大澤星一	〃
〃	就(担)石井美琴	〃	〃	鈴蘭台 辞(担)川原田玲子	〃	就(担)澤田石秀晴	〃	就(主)宮島星子
大町	辞(代)柳谷知之	大分	〃	長崎ウェスレヤン大学	福岡中部 辞(担)正田義也	遺愛女子中学・高校	飯田知久町	辞(代)丸大 勝
清水	辞(担)高橋 信	〃	〃	就(主)目下部克彦	愛泉	就(担)正田義也	就(教)森野真理	〃
清水国際高校	就(教)高橋 信	〃	〃	就(主)目下部克彦	善通寺	辞(代)尾崎公明	東京神学大学	就(主)平島愛恵
愛川	辞(主)米田 眞	鹿屋	〃	就(主)西畑 望	〃	辞(外)近藤 誠	伊豆長岡 就(主)高多英明	目白
〃	就(代)斎藤恵子	〃	〃	就(代)坂田 茂	宮内	辞(主)近藤国親	王子北	辞(主)川崎達也
名古屋学院大学	辞(教)福井 智	由布院	〃	我孫子	〃	就(代)北垣俊一	〃	就(主)沼田和也
甲南	辞(担)芹野 創	〃	〃	〃	大泉テール	就(主)葛井義顕	郡中南	辞(主)小林秀樹
杉並	辞(主)安部一徳	泉佐野	〃	〃	〃	辞(主)伊藤瑞男	松山城北 辞(代)篠浦千史	〃
〃	就(主)芹野 創	〃	〃	〃	〃	就(主)森田 進	三・一 辞(担)小田部進一	〃
北見望ヶ丘	辞(主)秋山千四郎	吉原	〃	〃	〃	就(主)森田 進	甲山	就(主)梅崎須磨子
〃	就(主)安部一徳	住道一粒 辞(主)高橋三郎	〃	〃	〃	就(主)森田 進	就(主)梅崎須磨子	教師隠退
名寄	辞(代)ロバート・ウィットマー	扇町	〃	〃	〃	就(主)森田 進	長倉 勉、服部尚子、榎本栄次、小淵康而、禿 準一、椿憲一郎、西田直樹、平松真人、後宮俊夫、米田 眞、池田清樹、横山義孝、萬代慎逸、木俣 修、隠退より復帰	三枝道也、本村和子、鈴木正三
〃	就(代)藤吉求理子	阿倍野	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
土別	辞(主)難波真実	梅花女子中学高校	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
遺愛女子中学高校	就(代)藤吉求理子	大阪九條 辞(主)津田一夫	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
七飯 辞(主)三浦きょうこ	就(教)鳴海としゑ	醍醐	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
〃	就(主)鳴海としゑ	能代	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
江差	辞(代)藤崎裕之	〃	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
〃	就(代)石橋香代子	秋田榎山 辞(主)川島隆一	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
神戸聖愛 辞(担)阪口 新	〃	就(主)横山 望	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
多度津	辞(主)福田 哲	東京聖書学校	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
〃	就(主)阪口 新	辞(神)横山義孝	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子
敦賀	辞(主)木谷 誠	関東教区就(巡)石川榮一	〃	〃	〃	就(主)宮本幸男	出来島	辞(主)田中悦子



片岡 暁伸さん

「福島から」の出発



1977 年生まれ。福島教会員。

いまも9万人超の人々が県外避難する福島へ移住し、月に一度、福島から取引先のベトナム、東京へ出かけてゆく。「アイディアは移動距離に比例するというのが私の持論」と片岡さんは語る。

片岡暁伸さんは、代田教会員の両親と共に物心つく前から教会に通っていた。大学4年生で信仰告白し、聖歌隊奉仕が喜びとなった。一方、中学時代から脱サラ本や実用書に興味があつた。高校時代には個人輸入の入門書を片手に、親に内緒で実践。失敗もしつつビジネスの面白さに惹かれた。大学時代からその世界に入り、卒業後ITベンチャー、経営コンサル会社に勤務、20代

で香港と東京の上場会社役員として超多忙な生活を送る。転機は、東日本大震災だった。震災で大損害を被り、事業主として方向転換を迫られた。放射能測定器の輸入事業や除染事業を始め、福島へ出張の機会が増えた。その後、週の半分を福島で過ごし訪れた福島教会で「住む復興」という言葉が耳に残った。軸足を福島に置く決意をする。短期でトレンドの変化する被災地でリスク分散をしつつ、これまでのノウハウやネットワークを用い精密機器、タブレット等複数の事業を展開する。復興の道にビジネスは不可

欠である。今や全国各地から人が集まる福島だが、復興ビジネスは地域に深く根差したもので、しかも地域の将来につながるものでなければ根本的な回復とはならないと片岡さんは語る。高い技術力を持つ地元民の多くは、自ら仕事を作り出すことが得意でない。福島の2、3年後の雇用をどう生み出せるかが課題だ。片岡さん自身、移住を通して上昇志向の生き方からパラダイムシフトを経験し、よりシンプルに生きる場所を見出した。今は、日曜日ごとに語られるみ言葉を一言も聞き漏らしたくない」と語る。

伝道は「けもの道」

今年も教団新任教師オリエンテーション(6月)に出席し、大きな励ましを与えられた。新任教師37名、神学校代表・教団関係・スタッフ24名の参加で、講演等の学び、食事等の交わりを共にし、新任教師はもろんのこと、経験を積んだ教師にとっても、伝道者としての歩みの原点を確認する良い機会となったことと思う。何よりも新任教師の方たちが、遣わされた地置かれた場での活躍を祈るものである。会の最後に、主催した教師委員会から、突然、「何か一言を」と

言われてあわてたが、「伝道は『けもの道』だ」と話した。「けもの道」とは、山の中にできた動物たちが行き来した跡であり、獣の通路である。このころ私が住む秋田県では山菜採りの方たちが熊に襲われる被害があるが、そのような時、その近辺に熊が通た跡を見ることがある。つまり、伝道には、このようにすれば受洗者が起される…という

分の願いや計画といったものを放棄させられて、日々の務めを担い続ける時にできる道のようなものという意味である。この度も、私自身、今出会う一人ひとりの関わりを感じ、大切にしたい伝道の業に励もうとの思いを新たにしたい。(教団総会書記 雲然俊美)